

# ピノキオを読み解く

広島大学教育学研究科教授 佐藤 眞典先生

テレビ会議システムを利用した特別講義 2003年3月18日 15:40 ~ 17:00

毎年3月には、生徒がいろいろな学問の最先端にふれる体験ができることを期待して、広島大学の先生を講師にお迎えしての教育講演会を実施してきた。2002年度は、この教育講演会をテレビ会議システムという最先端の技術を駆使しながら、マルチメディアホールで行うことになった。



講師をお願いした広島大学教育学研究科の佐藤眞典先生のご専門は、西洋史学

である。特に「イタリアの都市国家体制はいかにして形成・確立されたか」研究しておられる。2002年5月には、イタリア文化会館が主催する「マルコポーロ賞」を授賞された。イタリア文化会館は日本とイタリアの文化交流を振興するための政府機関である。マルコポーロ賞はイタリアに関する日本人による著作の年間最優秀作品を表彰している。

この講演では、生徒もよく知っている「ピノキオ」に焦点を当て、ピノキオの物語の中から読み解くことのできるイタリアの歴史や、ピノキオの中に隠されている人間形成について講義していただいた。

## < 講演の概要 >

ピノキオの作者（カルロ＝コッローディ）はピストイアという町の出身で、この町は佐藤先生が留学中に、1年間古文書館に通って研究したところである。今回マルコポーロ賞を受賞した本の半分はこのときの成果をまとめたものである。

ピノキオの研究は私の本当の専門ではないが、ジュリアーナ＝リミティ「イタリア文化の伝統におけるピノキオ」や前之園幸一郎「ピノキオの冒険における今日的なメッセージ」等から題材を得て、今日の講義をしたものである。

ピノキオの書かれた（1883年出版）時代はどのような時代だったか紹介しよう。1861年にイタリア統一がされたが、国の形はできて国家や政府は外国からの従属的な状況に置かれていた。その中で独立した国家としての国作りを、そして国を支える人たちを作ることを考えていた時期である。たとえば学校を作り、学校で教える先生を育成し、子どもたちを育てることに力を注いだ。

このような時代背景で書かれたピノキオからは、国家成立の時代の背景を読み解くことができる。



みなさんは、ピノッキオの物語を読んだことがありますか？  
どんなところが印象に残っていますか？

クジラに飲み込まれる。 鼻が伸びる。 キツネとネコにだまされる。

ディズニーの映画「ピノキオ」には醜いところや残酷なところ、苦しいところは描かれていないという批判がある。実際に語られたピノッキオには、残酷さや苦しい場面が描かれている。ピーターパンの物語のように魔法で解決したりする場面は描かれていない。こどもから自立して大人になっていく姿を描いている。

ピノッキオでは3つの物語が重なっている。

1 木片から掘り出された人形ピノッキオの冒険

2 ピノッキオが成長し独立していく人間形成史

3 ヨーロッパの列強から不遇の国イタリアが国として成長していく、従属からの独立  
作者は、時代を担うイタリア人はどうあってほしいか、しかし現実のこどもは善良であろう・完全であろうとする。しかし、弱く、誘惑に耐えられない。そうした姿を描こうとしたものだと考えることができる。

ジェppetトじいさんが人形をつくる：職人の世界の厳しい生活、職人は家庭をもてないほど生活が苦しいので、老後のめんどうを見てくれる子供を修道院からもらってきて養子にし、自分の技術を教えてやる。この話が人形作りとして描かれている。

ジェppetトじいさんは、唯一の自分の一張羅を売って、学校へやろうとするが、ピノッキオはそのお金で買ってもらった教科書売って人形芝居を見る。別の場面ではもらった金貨を、キツネとネコにだまし取られる。「土の中に埋めると何倍にもなって帰ってくる場所がある」といわれて騙されてしまう。子どもというのは決して良いところばかりではなく、失敗や間違いを繰り返しながら成長していくものである。



小動物（コオロギなど：良心）の忠告は、無視しようと思えば簡単に無視できる。ひねりつぶそうと思えば簡単につぶせる。ピノッキオも良心との葛藤を経験しながら成長をしている。

働きバチの島では労働しなければ食料をもらえない。お腹をすかせたピノッキオは貧しい国民を象徴しているのではないだろうか。

サメのお腹の中でジェppetトじいさんと再会し、ピノッキオが背負って泳いで助けるが、これは労働を厭わず、ジェppetトじいさんの面倒を見るという、ピノッキオの成長した姿である。



この物語は学校で学ぶこと，世間で学ぶことのどちらがよいかの比較にもなっている。ピノキオは優等生にもなるが，何回も失敗を繰り返していく。その経験が重要である。（読み書きなど学校も必要だが，いろいろな経験が重要）

イタリア国家を作っていくとき，自由を持った国民，責任も担える国民であるように願っているのではないか。メッセージをみなさんも読み解いてほしい。

< 講義後の生徒の感想より >

ピノキオといえば人形のこどもが本当の子供になる話だというぐらいのことは誰でも知っているような有名な話で，自分でもピノキオについては人並み程度ぐらいは知っていると思っていましたが，今日の先生のお話を聴いて，自分は本当はピノキオのことを全然知らなかったことがわかりました。ピノキオには書かれた時代のイタリアの生活がとても反映している作品で，子供のためのただの童話ではなく，作者の強い主張を持った親子のための話なのではないかと，先生の話聞いて思いました。ピノキオが父親であるジェッペットさんから離れて冒険することで成長するところは，日本の「かわいい子には旅をさせる」と同じ精神がイタリアにもあるのかなぁと感じました。成長してピノキオが人間の子供になって話が終わってしまって，ピノキオが立派な青年や大人になって終わらないところに，完全にできあがった人間というものではなく，勉強というか経験をずっとしていくという姿勢が人間にとって必要であるということを作者は言いたかったのではないかと思います。今度新しく出版されたピノキオの本をぜひ読んでみたいと思います。

（5年男子）

これまでピノキオのお話を読んだことがなかったので，ぜひ読んでみたいと感じました。「子供の権利条約」のお話が出てきましたが，これは子供によって訳されているのですね，知りませんでした。これについてもこれから勉強してみようと思いました。イタリアの時代背景というのはよくわからなかったのですが，これからの社会をつくっていくのが「子供」であるということを知り，私たちにもあてはまるのかなと考えました。でもその「子供」を教育するのは大人しかいません。「大人」は大人として，「子ども」は子どもとしてしっかり責任を持って生きることが大切なことだと思いました。

（2年女子）



### <まとめ>

作品の中に込められた作者の願いや思いを読み解くことは、高い読解力を必要とする。ふだん何気なく読んでいるピノキオの物語に、国家成立の時期の国民に対する期待や、子どもの成長への願いがこめられているということは、なかなか気付くことのできない事実であろう。そうした驚きを、生徒たちはこの講義から得ることができたのではないだろうか。

2002年度は、サイエンス・パートナーシップ・プログラム事業での講演や講義が実施されたが、この「ピノキオを読み解く」は、その中でS P Pとは学問領域の異なる内容であったこともたいへん意味のあることだったと感じる。

広島大学と福山附属を結ぶテレビ会議システムは、この講演より、操作が容易な新しい機種に更新された。これにより今後の遠隔授業、遠隔講演等は、非常に手軽に利用が可能となっている。テレビ会議システムはマルチメディアホールに常置されることになり、準備の労力も以前よりはるかに軽減された。

今後も様々な分野での遠隔授業、遠隔講演等が実施されて行くことを期待したい。

